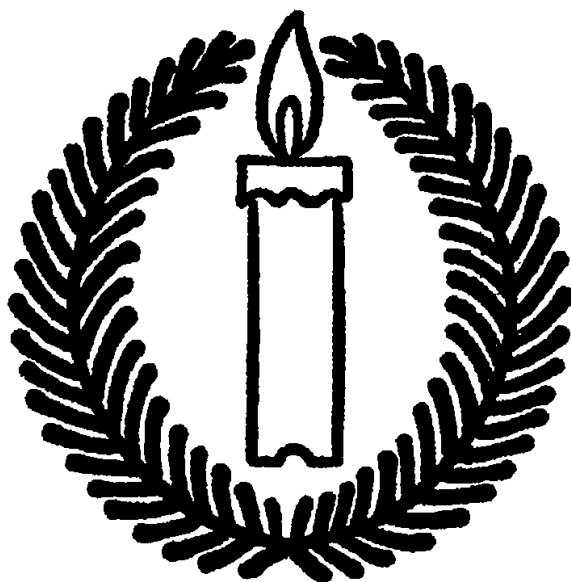


結成 90 周年記念誌



一般社団法人

鹿児島県視覚障害者団体連合会

発行日：平成 30 年 10 月 28 日

発行人：小山 義方

編集人：武元 光廣


事務局所在地：〒890-0021 鹿児島市小野一丁目 1 番 1 号
ハートピアかごしま 3 階

電話・FAX：099-228-6712

E-mail office@kakenshikakuren.jp

URL：http://kakenshikakuren.jp

大会スローガン



◇ 進めよう

視覚障害者の災害対策

◇ 無くそう

障害者差別

◇ 守ろう・広げよう

視覚障害者の職業領域

◇ 伝えよう

組織の存在意義

目 次

結成 90 周年記念第 2 回鹿児島県視覚障害者福祉大会開催要綱	1
ご挨拶（会長 小山義方）	2
視覚連 90 年の歩み	3
はじめに	3
結成総会まで	3
戦前・戦中の歩み	4
焼け跡に芽吹く福祉の芽	4
一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会年譜	6
昭和 53 年	6
昭和 54 年	6
昭和 55 年	6
昭和 56 年	6
昭和 57 年	7
昭和 58 年	7
昭和 59 年	8
昭和 60 年	8
昭和 61 年	8
昭和 62 年	9
昭和 63 年	9
平成元年	10
平成 2 年	11
平成 3 年	11
平成 4 年	11
平成 5 年	12
平成 6 年	12
平成 7 年	13
平成 8 年	13
平成 9 年	14
平成 10 年	14
平成 11 年	15
平成 12 年	15
平成 13 年	16
平成 14 年	17
平成 15 年	17
平成 16 年	18
平成 17 年	18
平成 18 年	19
平成 19 年	19
平成 20 年	20
平成 21 年	20
平成 22 年	21
平成 23 年	21
平成 24 年	21
平成 25 年	22
平成 26 年	23
平成 27 年	24
平成 28 年	24
平成 29 年	25
平成 30 年	25
歴代役員名簿	27
被表彰者名簿	29
宣言（案）	30
決議（案）	31
編集後記	32



結成 90 周年記念

第 2 回鹿児島県視覚障害者団体連合会福祉大会開催要項



1. 目 的 結成 90 周年を記念し、県下の視覚障害者が一堂に会し、その喜びを分かち合い、先輩諸氏の功績を偲ぶと共に、今後の飛躍と団結を誓い合い、併せて広く県民の理解を求めつつ、視覚障害者福祉の一層の充実と、権利の確立を図ることを目的とする。
2. 主 催 一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会
3. 後 援 鹿児島県・鹿児島市・社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会
社会福祉法人鹿児島市社会福祉協議会
社会福祉法人鹿児島県身体障害者福祉協会
4. 協 力 NPO 法人すだちの会自立支援センター南さつま
NPO 法人光の会就労支援センターふたば
5. 対象者 一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会会員とその関係者
6. 会 期 平成 30 年 10 月 28 日（日）10：00～15：00
7. 会 場 大会式典： 鹿児島県産業会館
鹿児島市名山町 9-1 TEL 099-223-9171
交流会： アクアガーデンホテル福丸
鹿児島市名山町 11-8 TEL 099-226-3211
8. 内 容 (1) 大会式典 10：00～10：45
(2) 記念講演 10：50～11：50
演題：明治維新と西郷隆盛
講師：福田賢治氏（維新ふるさと館特別顧問）
(3) 交流会 12：30～14：30
9. 参加費 3,000 円（付添も同額）
10. お問合せ先 一般社団法人鹿児島県視覚障害者団体連合会
〒890-0021 鹿児島市小野一丁目 1 番 1 号
ハートピアかごしま 3 階
電話・FAX：099-228-6712
E-mail office@kakenshikakuren.jp
URL：http://kakenshikakuren.jp

ご挨拶

一般社団法人

鹿児島県視覚障害者団体連合会

会 長 小 山 義 方

本日ここに、鹿児島県・鹿児島市をはじめ関係機関の方々多数のご臨席を賜り、本会結成 90 周年記念福祉大会を開催できますことを、主催者としてたいへん喜ばしいことであるととともに、日頃より会のためにご支援・ご協力をいただいている多くの皆様方のおかげと、深く感謝申し上げます。

本会は、昭和 3 年、視覚障害者の資質を高め福祉を増進せんとする先人の熱意のもと、多くの支援者を得て結成しました。

その後、太平洋戦争、そして戦後の混乱期を乗り越え、本会は今日に至るまで多くの課題と向き合いつつ、会員が一致団結して様々な福祉活動を展開してまいりました。そして、今日、私たちが当たり前のよう利用している福祉制度の基礎を築いてきました。

ならば、その福祉を後退させることのないよう、それに一つでも二つでもプラスして次の世代へ引き継ぐのが、私たちの使命であると考えます。

昨今、会への組織離れが深刻になっています。私が本会の役員になった 17 年前 500 名を超えていた会員数が、現在は 400 名ほどに減少しています。そして、その大多数が 65 歳以上の高齢者となっています。障害者福祉施策が目まぐるしく変化している今日だからこそ、当事者団体の存在は否めません。会の存在意義を若い世代の視覚障害者にどのように伝えていくか、21 世紀に似合う新しい会の組織化がこれからの課題となりそうです。

いよいよ本会はあと 10 年で 100 周年を迎えます。今日のこの節目の日に、私たちは本会の歴史の中で先人が汗と涙の下に勝ち取り積み上げてきた福祉について振り返り、今一度、一致団結してこれからの会の進むべき道について共に語り合いたいと思います。

先輩方が灯し続けてきた会の光を絶やさぬよう、今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

視覚連 90 年のあゆみ

はじめに

本会では、50 年前、遺族会館で、結成 40 周年記念大会を開催して以来、10 年ごとに結成記念大会を開催してきた。また、記念大会ごとに記念誌も発行してきた。今回 90 周年を迎えるに当たっても、記念誌の発行を決議し編集に取りかかったが、90 年の足跡を全て記載しようとするると 1 冊の単行本が出来てしまう。そこで、昭和 52 年までについてはその歩みを簡単な一文にまとめ、それ以後については年を追って年譜として記載することにした。

この記念誌を発行するにあたっては多くの方々のご協力を戴いた。誌上を通じて厚く御礼申し上げる。特に昭和 23 年、戦後の再発足以来 6 期 12 年に亘って、会長を勤められた故村山麒一先生が、50 周年の大会でお話し戴いた原稿は大いに参考にさせて戴いた。今となってはお礼の申し上げようもないが、謹んでご冥福をお祈りする次第である。

結成総会まで

鹿児島盲学校第 2 代校長の川畑宗次郎先生は、“盲人の資質を高め福祉を増進するためには、何よりもまず、その組織化が必要だ”と考え、当時盲学校の教師であった村山麒一、田村行孝、田辺直行の三氏に、機会あるごとにその事を話しておられた。三氏は昭和 3 年に天皇の即位式が行われたことから、この記念すべき時に我々も立ち上がろうと決意し、鍼灸業界・按摩業界・盲僧の指導者等に呼びかけ、「鹿児島県盲人協会結成発起人会」を組織した。この時集まったのは、盲僧の指導者江田俊了、芸能界を代表して飯牟礼寿長、鍼灸業界から城隆次・米田直次・木森己之助、按摩業界から竹下虎吉・上原栄二、婦人代表の荒木アイ、それに、前に記した盲学校の三教師であった。

彼等は度々盲学校に集まり、事業計画、それに伴う予算・役員構成・結成総会の持ち方などについて協議を重ねた。中でも最も彼等が頭を悩ましたのは予算である。当時の盲人の多くは、その日の暮らしにも困窮していた。したがって会費収入に多くの望みをかけるのは危険であった。思案に暮れた末、川畑校長を通じて県に補助を申し出たのであるが、川畑校長のご尽力のおかげで、県から「会費で不足する支出は、全て県が補助する」という、夢のような確約を取り付けることが出来た。こうして昭和 3 年 10 月 13 日鹿児島市公会堂（今の中央公民館）において、川畑校長の永年の夢であった、鹿児島県盲人協会が、県下の盲人の夢と期待を一心に集めてスタートしたのである。

初代の役員は次の通りであるが、盲学校の校長を会長に推し、県の社会課長を常務に委嘱している点は、現在としては異色である。また、これらの方々は全て故人となっておられ、当時の思い出を聞くすべもない。

会 長	川畑宗次郎	
副会長	江田 俊了	
常 務	川畑宗次郎	県社会課長
常務理事	城 隆次	田村 行孝
	村山 麒一	田辺 直行
理 事	竹下 虎吉	木森己之助
	荒木 アイ	上原 栄二

戦前・戦中の歩み

盲人協会は、結成と同時にめざましい活動を開始した。毎年1回の定期総会はいうに及ばず、三療業の研修会、文化講演会、家族への感謝を込めた家族慰安会など、現在視覚連や県鍼師会が実施している事業のほとんどを結成当初に始めている。

特に目を見張るのは、県立病院（現在の鹿児島大学医学部付属病院）の眼科部長に依頼して、春と秋2回の巡回眼科検診を、実施していることである。医師過剰といわれる現在と違って、医師の数も少なく保険制度が確立されていないために、医師にかかろうにもかかれなかった県下の盲人にこの事業が果たした役割は、計り知れないものがあると思う。

また、白杖の無料配布や、貧困な会員の救済事業など、行政が行うべき事業にも手を染め、活動の範囲はまことに多岐にわたっている。見方を変えると当時の福祉行政がいかに貧弱であったかを、如実に物語っているとも言えよう。時代を反映した事業に軍への献金がある。会員に予め貯金箱を配布しておき、後日これを回収して毎年軍に献金している。その功績が政府に認められ、昭和13年には、海軍大臣から感謝状を受けている。これなど福祉という考えからすれば相反する行為のようだが、世相をよく物語っている。その日暮らしの生活を切り詰めての献金は、1日も早い平和を願えばこそであったと思うが、その願いとは裏腹に、中国大陸から南方へと戦火はますます広がっていった。そして、昭和16年には、あの忌まわしい太平洋戦争へと突入して行くのである。

そんな中で盲人協会は、昭和16年9月18日定期総会を開き、会の運営について協議した結果、このような情勢では会の維持は難しいとして、一時休会を決議せざるを得なかった。綿密に記録されたノートは、この日を最後に一切残されていない。文字どおり戦争が福祉を叩き潰したのである。

焼け跡に芽吹く福祉の目

まだ戦火の跡も生々しい昭和23年9月27日、白い杖をたよりに草牟田の盲学校へ向かう、盲人たちの姿が見られた。盲人協会再発足の通知を受け、会場へ向かう人達であった。この日盲学校に集まったのはおよそ50人だが、住所不明で返ってきた手紙も多かった。「今度こそは永遠の平和を、そして本当の福祉を」との固い信念を胸に参集した人達によ

って再発足した盲人協会はまず、自分たちの活動の拠点作りに乗り出した。盲人福祉センターの建設運動がそれである。

同年 10 月三重苦の聖女として世界中の尊敬の的であった、ヘレン・ケラー女史が来日したこともあって、会員の意気は盛んだった。会員は一人 1 千円の拠出を決議すると共に、広く県民からも協力を仰ぐこととし、愛の鉛筆販売を決議した。会員は手分けして県内の学校や企業を回り、あるいは木枯らしの吹きすさぶ街角に立って、1 本 5 円と 10 円の鉛筆を売り資金づくりに奔走した。

盲学校の職員生徒の全面的な協力もあって、この愛の鉛筆販売運動は思わぬ成果を上げ、会員の拠出金を合わせ数十万円に達した。この中から 50 万円を県に寄付し、それに国が 50 万、県が 50 万出し、150 万円で出来たのが、県立盲人点字図書館、現在の鍼灸マッサージ師会館である。盲人福祉センター建設という目標でスタートした運動は、こうしてみごとに花開いたのである。

組織の面でも会員は増加の一途をたどり、各地で支部が結成されるようになった。全会員を集めての総会の開催は、会場探しに困るようになり、ついに昭和 43 年に連合会組織に改組し、名称も現在の「鹿児島県視覚障害者団体連合会」と改称されたのである。

このころから会を法人化しようという動きが持ち上がっている。しかし、法人と任意団体との違いを明確に説明できる役員も少なく、時期尚早ということで一時立ち消えになっていた。県の委託事業を実施するようになったのが、昭和 48 年からであるが、ここで再び、法人化の必要性が叫ばれるようになった。今度は役員も本腰で勉強にかかり、先進団体から資料を取り寄せ、あるいは、いろいろな人の意見を聞いてほしい方向が定まった。しかし、事務所や職員など解決を要する問題も多く、すぐには動きが取れなかったのである。その後の事はこの後の年譜に記すとおりである。

このように我が視覚連は、どこでも、誰にでも誇りうる立派な歴史を持っている。我々はこの歴史を汚すことなく、一層強固な組織にしていく義務と責任があると思う。会員一人一人がこの義務と責任をしっかりと胸に秘め、活動するならば視覚連の前途は洋々たるものがある。90 周年という記念の年を機に、次代を担う若い会員たちの一層の奮起を期待してこの文を閉じることにする。

一般社団法人鹿児島県視覚障害者団体連合会年譜

(結成 50 周年大会以降)

- 昭和 53 10. 5 婦人会館において、結成 50 周年記念大会開催。230 名参加。
式典・議事に続いて日盲連の木村竜平副会長の記念講演があり、
祝賀会を行った。なお、北園英藏会長より、役員功労者 43 名・
内助功労者 15 名を表彰、1 団体と 10 人に感謝状を送った。
- 昭和 54 2. 22・23 第 32 回九州盲人福祉大会（福岡県）本会から 30 名参加。
4. 15 代議員総会開催。
5. 29～31 第 32 回全国盲人福祉大会（富山県）本会から 14 名参加。この大
会で鹿児島市の北園英藏氏夫人ムメさんが光の泉賞を受賞。
7. 29・30 夏季研修会開催。長島の国民宿舎に一泊し、阿久根の盲老人ホーム
蓮の実園を見学。70 名参加。
11. 23 身体障害者福祉法施行 30 周年を記念する大会（鹿児島市中央公民
館）本会より、鹿児島市の和田アツ子さんが体験談を発表。
- 昭和 55 1. 30・31 第 33 回九州盲人福祉大会（沖縄県）本会から 102 名参加。
初めての沖縄大会で、戦後の沖縄を見学。
4. 20 代議員総会開催。役員改選の結果、新役員が次のように決定。
会 長 中山 岩男
副会長 大久保哲雄 右田 信男（代行）
常任理事 上山 道則 清藤 郁雄 小牧 イネ
増森 正人 森永 速雄
監 事 有村 範雄 菊永 三郎
5. 4 第 17 回九州盲人野球大会（福岡市）本県チームは初優勝、第 1 回
大会で本県が寄贈した優勝旗を初めて持ち帰った。さらに本県チー
ムは 10 月に栃木県で行われた全国大会に九州代表として出場、1
回戦で敗退。
5. 13～15 第 33 回全国盲人福祉大会（佐賀県）本会から 10 名参加。同時に行
われた将棋大会には、鹿児島市の有村範雄さんが参加。
7. 27・28 夏季研修会開催。佐多町国民宿舎に一泊し、九州最南端の佐多岬灯
台を歩いて見学。78 名参加。
9. 16 国際障害者年鹿児島県懇話会（サンロイヤルホテル）本会から会長
が出席、点字図書館の移転充実と職員増を要望。
10. 26 点訳朗読友の会結成 20 周年記念大会（鹿児島市福祉コミュニティー
センター）本会からも役員が参加。
12. 7 村山麒一元会長の勲 5 等瑞宝章叙勲祝賀会開催（吹上荘）
- 昭和 56 2. 14・15 第 34 回九州盲人福祉大会（長崎県）本会から 38 名参加。

4. 19 代議員総会開催。右田信男氏を副会長代行から正式に副会長に選任。
4. 20 国際障害者年記念、鹿児島県視覚障害者福祉大会開催（遺族会館）
会員 150 名参加。県の行う国障年の事業について説明を聞いた。
5. 19～21 第 34 回全国盲人福祉大会（鳥取県）本会から 15 名参加。この大会
で、大久保副会長が尽し賞を受賞。川辺町の中村善盛氏夫人ミチ子
さんが灯賞を受賞。
6. 30 前会長の北園英藏相談役が厚生大臣表彰を受賞したので、本会より
記念品を贈り祝意を表す。
7. 1 県社会福祉センターの 4 階に本会事務所を開設。初代事務局長に鹿
児島市の森永速雄氏を委嘱。
☆ 本会にはこれまで常設の事務所がなく、会長宅を事務所とし
ていた。
7. 26・27 夏季研修会開催。えびのの国民宿舎に一泊し、えびのの歴史につ
いて研修。60 名参加。
- 昭和 57 2. 15・16 第 35 回九州盲人福祉大会を本県で開催。1 日目はホテル鶴丸で分
科会と代議員会を行い、役員改選の結果、福岡市の吉塚勝己氏を
会長に選任。2 日目は鹿児島市中央公民館に 730 名の参加を得て、
福祉大会を行った。宿舎はホテル鶴丸と吹上荘。
4. 25 代議員総会開催。会則の一部を改正、事務所を県社会福祉センタ
ーに移ると共に、盲僧部を削除することを決定。また、役員改選の
結果、新役員が次のように決定。
- | | | | | |
|------|-------|-------|-------|--|
| 会 長 | 中山 岩男 | | | |
| 副会長 | 大久保哲男 | 森永 速雄 | | |
| 常任理事 | 上山 道則 | 清藤 郁雄 | 小牧 イネ | |
| | 武元 光廣 | 右田 信男 | | |
| 監 事 | 有村 範雄 | 菊永 三郎 | | |
5. 14 中山会長が役員として永年勤めてきた功績が認められ、厚生大臣
表彰を受賞。この祝賀会は、点訳朗読友の会との共催で、6 月 13
日にホテル鶴丸で行った。
5. 18～20 第 35 回全国盲人福祉大会（茨城県）本会から 7 名参加。この大会
で、中山会長婦人のハルさんが光の泉賞を受賞。
7. 25・26 夏季研修会開催。池田湖で大鰻・開門山麓公園でトカラ馬を見学の
後ホテル海浜荘に一泊、翌日は、指宿市が造った香りの森を見学。
108 名参加。
11. 1 自主財源確保を目的とした、図書販売事業を開始。
株式会社 M A C に事業を委託。
- 昭和 58 2. 12・13 第 36 回九州盲人福祉大会（佐賀県）この年は代議員総会のみが行
われ、本会からは 11 名が参加。

5. 1 代議員総会開催。事務局への職員の採用、法人化に向けての準備を進めることなどを決議。
5. 18～20 第 36 回全国盲人福祉大会（宮崎県）本会から 170 名参加。この大会で、川内市の堀之内金次郎氏が尽し賞を受賞。
7. 23・24 夏季研修会開催。串木野の南九州造船所と川内原発を見学、市比野のホテルグリーンランドに一泊。45 名参加。
10. 8・9 九州盲青年研修大会を岩崎谷荘で開催。1 日目は組織強化・結婚問題・趣味のアマチュア無線の 3 分科会、2 日目は全体会を行い、71 名が参加。
- 昭和 59 2. 25・26 第 37 回九州盲人福祉大会（福岡市）本会から 23 名参加。役員改選の結果、佐賀県の秀島光義氏が会長に選任。
4. 22 代議員総会開催。役員改選の結果、常任理事の武元光廣氏が尾曲政輝氏に代わった他は全員留任。
4. 23 視覚障害者福祉大会開催（県消防会館）215 名参加。記念講演では、61 年度から実施予定の改正年金法について県年金課の説明を聞いた。
5. 5・6 第 21 回九州盲社会人野球大会（佐賀県）本県チームは 2 度目の優勝。そして 10 月に奈良県で行われた全国大会に九州代表として出場、準優勝。
5. 16～18 第 37 回全国盲人福祉大会（青森県）本会から 14 名参加。
7. 28・29 夏季研修会開催。都城のニューグランドホテルに一泊、関之尾の滝、小林の陰陽石を見学。50 名参加。
- 昭和 60 2. 16・17 第 38 回九州盲人福祉大会（宮崎県）本会から 47 名参加。
4. 18 代議員総会開催。午後からは社団法人の設立総会に切り替え、経過報告・定款の審議・事業計画及び予算の審議、最後に設立代表者に中山岩男氏を、そして設立当初の役員は次のように決定。
- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 会 長 | 中山 岩男 | | |
| 副会長 | 大久保哲男 | 森永 速雄 | |
| 理 事 | 上山 道則 | 尾曲 政輝 | 木藤 武則 |
| | 清藤 郁雄 | 小牧 イネ | 堀之内清美 |
| | 右田 信男 | 向江 成年 | 山下 介三 |
| | 山之内篤雄 | | |
| 監 事 | 有村 範雄 | 菊永 三郎 | |
5. 23～25 第 38 回全国盲人福祉大会（長野県）本会から 4 名参加。
7. 27・28 夏季研修会開催。笠沙町の大洋館に一泊、秋目海岸・坊津町歴史館・川辺町の摩崖仏を見学。68 名参加。
- 昭和 61 2. 16・17 第 39 回九州盲人福祉大会（大分県）本会から 25 名参加。役員改選の結果、佐賀の秀島光義氏が会長に再選。また、本会の森永速雄氏が監事に尾曲政輝氏が青年部副部長に選任。

4. 1 年金法改正による基礎年金がスタートし、障害基礎年金は 1 級で年額 754, 500 円、2 級で 603, 600 円が支給されることになった。
4. 27 代議員総会開催。社団法人の認可が遅れているが、県の指導で法人の定款に基づく通常総会として開催、設立当初の役員を改めて承認。
5. 19～21 第 39 回全国盲人福祉大会（香川県）本会から 9 名が参加。この大会で、中山会長が礎賞を、鹿屋市の上山道則氏が尽し賞を受賞。
7. 14 社団法人申請が本日を持って許可され、社団法人鹿児島県視覚障害者団体連合会が発足。
7. 27・28 九州盲婦人研修大会を本県で開催（サンロイヤルホテル）200 名参加。1 日目は「平和と私」・「上手な家計のやりくり」をテーマに討議、2 日目は鹿児島婦人・少年室長、折田幸子先生の「働く婦人の昨日・今日・明日」と題する講演を聞いた。
8. 2・3 夏季研修会開催。人吉市の人吉観光ホテルに一泊、球磨川下りの後、球泉洞を見学。84 名参加。
10. 15 社団法人設立記念、鹿児島県視覚障害者福祉大会開催（旧市町村自治会館）340 名参加。「これからの福祉のあり方」と題する身体障害者福祉司、久永繁夫先生の記念講演を聞いた。
- 昭和 62 2. 15・16 第 40 回九州盲人福祉大会（熊本県）本会から 32 名参加。結成 40 周年ということで表彰が行われ、本会の小牧イネ・段林六市の両氏も受賞。
4. 1 点字図書館の管理運営が身障福祉協会に委託。
4. 26 法人になって初めての通常総会開催。会費を年 500 円から 1, 000 円に改定。法人として正規の役員選挙を行ったが、設立当初の役員が全員再任。
5. 4・5 第 24 回九州盲社会人野球大会と第 15 回卓球大会を桜島町の熔岩グラウンドと体育館で開催。野球は本県チームが 3 度目の優勝を果たし、11 月に沖縄で行われた全国大会に出場、1 回戦で敗退。また、卓球は個人戦全盲女子で本件の選手が 1 位と 2 位を勝ち取った。
5. 17～19 第 40 回全国盲人福祉大会（福岡県）本会から 21 名参加。
8. 1・2 夏季研修会開催。宮崎市に一泊、青島サボテン公園・宇都神宮等を見学。60 名参加。
8. 21 県主催の国際障害者年中間年の集い（県文化センター）身障相談員・永年勤続者として鹿児島市の清藤郁雄・中山岩男の両氏が感謝状を受賞。また、養護老人ホーム伊敷園に勤務する湊美千代さんが体験発表を行った。
10. 15 朗読奉仕者の海江田悦子・山本政則の両氏が永年の奉仕活動の功績で、厚生大臣表彰を受賞。
- 昭和 63 2. 13・14 第 41 回九州盲人福祉大会（福岡県）本会から 11 名参加。昨年全国

大会が同権で開催されたことから、今回は代議員総会のみが行われた。役員改選の結果、佐賀の秀島光義氏が会長に留任、本会の森永速雄氏は監事に留任、尾曲政輝氏が青年部長に選任。

4. 24 通常総会開催。2 年後に第 43 回全国盲人福祉大会を本県で開催することを確認、大会予算を承認、会員から 5,000 円のカンパを集めることを決議。

5. 3・4 第 25 回九州盲社会人野球大会並びに第 16 回卓球大会（宮崎県）野球・卓球団体共に本県チームが優勝。

5. 11～13 第 41 回全国盲人福祉大会（大阪府）本会から 15 名参加。日盲連結成 40 周年ということで、日盲連発祥の地である貝塚市の二色浜公園に記念碑を建立、その除幕式が行われた。この大会で、大久保副会長婦人の笑子さんが光の泉賞を、加世田市の酒瀬川道雄氏が尽し賞を、鹿児島市の右田信男夫人のテルさんが灯賞をそれぞれ受賞。

6. 4・5 九州盲青年指導者研修会を鹿児島市の吹上荘で開催。研修会では「若根っ子の会」との交流を行った。

7. 30・31 結成 60 周年記念、夏季研修会開催。熊本県本渡市のシーサイドホテルに一泊、天草海中公園・キリシタン記念館・天草五橋を見学。102 名参加。

8. 27 今年度から導入されることになった盲導犬事業の第 1 号として加治木町の前田勇一郎氏が決定、訓練の為東京盲導犬協会へ出発。

10. 13 結成 60 周年記念福祉大会開催（旧県市町村自治会館）370 名参加。役員功労者 32 名と特別表彰 1 団体に表彰状を、ボランティア 7 名と 1 団体内助功労者 17 名に感謝状を贈呈。その他、議事・記念講演などが行われた。

平成元 2. 19～21 第 42 回九州盲人福祉大会に合わせて、本会結成 60 周年を記念して沖縄観光の旅を行い、74 名参加。ひめゆりの塔等を見学。

4. 23 通常総会開催。盲人福祉会館を県鍼灸マッサージ師会に無償譲渡することを決議。また、役員改選の結果、新役員は、次のように決定。

会 長	中山 岩男			
副会長	大久保哲男	森永 速雄		
理 事	上山 道則	尾曲 政輝	木藤 武則	
	清藤 郁雄	小牧 イネ	堀之内清美	
	右田 信男	立山 義雄	山下 介三	
	山之内篤雄			
監 事	有村 範雄	菊永 三郎		

5. 16～18 第 42 回全国盲人福祉大会（群馬県）本会から 16 名参加。翌年本県で開催予定のこの大会のための視察を行った。

7. 29・30 夏季一泊研修会開催。串木野市のゴールドパークを見学。
10. 1 鹿児島市視覚障害者協会主催で、本県初めてのワープロ講習会を開催。40 名余りの受講者を得た。
- 平成 2 2. 3・4 第 43 回九州盲人福祉大会（長崎県）。15 名参加。
4. 22 通常総会開催。
5. 16～18 第 43 回全国盲人福祉大会を本県で開催（サンロイヤルホテルと市民文化ホール）2,000 名参加。会員はもちろん、各行政機関・ボランティアなどのべ 400 名が総力を上げて成功させた大会であった。
7. 28・29 夏季一泊研修会開催。開聞町方面。93 名参加。
12. 14 第 1 回鹿児島県身体障害者福祉大会（県文化センター）本会員 9 名が身障協の近藤重和会長より表彰。
- 平成 3 2. 7・8 第 44 回九州盲人福祉大会を本県で開催。県内外から 180 名余り参加。この大会で、本県の 3 名に表彰状が、また 1 名に感謝状が九盲連会長より授与。
4. 28 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）役員改選の結果、新役員は次のように決まった。
- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 会 長 | 大久保哲男 | | |
| 副会長 | 森永 速雄 | 上山 道則 | |
| 理 事 | 右田 信男 | 清藤 郁雄 | 宮園 巡 |
| | 山之内篤雄 | 白山 哲也 | 白石 禮子 |
| | 山下 介三 | 菊永 三郎 | 永田 正信 |
| | 立山 義雄 | | |
| 監 事 | 有村 範雄 | 末次 嵩 | |
5. 15～17 第 44 回全国盲人福祉大会（兵庫県）本会から 24 名参加。この大会で鹿児島市の右田信男氏が尽し賞を、鹿屋市の上山道則氏夫人マチエさんが灯賞を受賞。
6. 23 宮之城町視覚障害者協会の結成総会開催、本会の加盟団体が 19 となる。
7. 14 中山岩男元会長の勲五等瑞宝章叙勲祝賀会開催。130 名参加。
7. 27・28 夏季一泊研修会開催。神話の里、宮崎県高千穂町方面。100 人参加。
8. 19 牧園町視覚障害者協会の結成総会開催。本会の加盟団体が 20 となる。
- 平成 4 2. 16・17 第 45 回九州盲人福祉大会（佐賀県）本会から 25 名参加。役員改選の結果、森永速雄氏が 4 期目の監事に就任。
3. 29 大崎町視覚障害者協会の結成総会開催。本会の加盟団体が 21 となる。
4. 26 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）
5. 3・4 第 29 回九州盲社会人野球ならびに第 20 回卓球大会（熊本県）卓

球は3度目の団体優勝、個人戦でも全盲男子の部で優勝、全盲女子の部で準優勝。

5.13～15 第45回全国盲人福祉大会（岩手県）本会から18名参加。この大会で、森永副会長婦人満里さんが光の泉賞を受賞。

7.25・26 夏季一泊研修会開催。阿蘇方面へ旅行、熊牧場を見学。

11.15 始良郡始良町視覚障害者協会の結成総会開催。本会の参加団体が22となる。

平成5 2.20・21 第46回九州盲人福祉大会（福岡市）本会から22名参加。

4.25 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）役員改選の結果、新役員は次のように決定。

会 長 大久保哲男

副会長 森永 速雄 上山 道則

理 事 右田 信男 清藤 郁雄 宮園 巡

菊永 三郎 白山 哲也 白石 禮子

永田 正信 有吉トメ子 立山 義雄

監 事 有村 範雄 末次 嵩

5.2・3 第30回九州盲社会人野球ならびに第21回卓球大会（福岡県）卓球は4度目の団体優勝、個人戦でも全盲女子の部で優勝、弱視女子の部で準優勝。

5.19～21 第46回全国盲人福祉大会（岡山県）本会から20名参加。

7.31・8.1 夏期一泊研修会開催。霧島から宮崎県綾町方面。94名参加。

7月末から8月はじめにかけての集中豪雨（8・6水害）と、8月末に上陸した台風13号により、会員の中から29世帯の被災者が出た。この惨事に対し、全国の視覚障害者団体や個人からの温かい義援金や励ましの言葉が寄せられた。

11.12 東京の日比谷公会堂で開かれた「全国社会福祉大会」で、大久保会長が厚生大臣表彰を受賞。北園英藏・中山岩男元会長に続いて3人目。

平成6 2.13・14 第47回九州盲人福祉大会（宮崎県）本会から29名参加。役員改選の結果、大分県の金子会長・宮崎県の馬場副会長を再選。

4.24 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）

5.3・4 第31回九州盲社会人野球ならびに第22回卓球大会（長崎県）卓球は団体戦で3連覇を果たし、個人戦でも全盲女子の部で優勝、弱視女子の部で優勝・準優勝、全盲男子の部で3位に輝いた。

5.18～20 第47回全国盲人福祉大会（栃木県）本会から22名参加。

8.26～28 第40回全国盲青年研修大会を本県で開催（ステーションホテルニューカゴシマ）県内外から170名参加。

- 11.12・13 台風のため延期になった夏季一泊研修会開催。屋久島方面。86名参加。
- 平成7 2.4・5 第48回九州盲人福祉大会（北九州市）本会から20名参加。
- 4.23 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）役員改選の結果、新役員は次のように決定。
- | | | | |
|-----|--------|-------|-------|
| 会 長 | 大久保 哲男 | | |
| 副会長 | 森永 速雄 | 上山 道則 | |
| 理 事 | 右田 信男 | 清藤 郁雄 | 宮園 巡 |
| | 瀬野 浦祐矩 | 白山 哲也 | 白石 禮子 |
| | 永田 正信 | 小松 憲和 | 立山 義雄 |
| | 山之内 篤雄 | | |
| 監 事 | 有村 範雄 | 末次 嵩 | |
- 5.13・14 第32回九州盲社会人野球ならびに第23回卓球大会（沖縄県）卓球団体は4連覇ならず。個人戦では、全盲女子と弱視女子の部で優勝、全盲男子の部で準優勝。
- 5.17～19 第48回全国盲人福祉大会（愛媛県）本会から16名参加。この大会で鹿屋市の上山道則氏夫人マチエさんが光の泉賞を受賞。
- 7.29・30 夏季一泊研修会開催。都井岬からシーガイア方面を見学。73名参加。
☆ 開催時期を変更して欲しいという声が多かった。
- 10.25 カイロ等撲滅総決起集会。日盲連・全鍼師会など関係者2,500名が日比谷公園に結集。本会からも大久保会長と右田理事が参加。
- 平成8 2.18・19 第49回九州盲人福祉大会（大分県）本会から27名参加。役員改選の結果、金子会長・馬場副会長を再選。
- 4.28 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）会の財政問題が話題になった。
- 5.11・12 第33回九州盲社会人野球ならびに第24回卓球大会（佐賀県）卓球は6度目の団体優勝。個人戦でも全盲女子の部で優勝、弱視女子の部で準優勝。
- 5.15～17 第49回全国盲人福祉大会（静岡県）本会から16名参加。この大会で知覧町の阿野山清氏が尽し賞を、川辺町の菊永三郎氏夫人久子さんが灯賞を受賞。
- 6.16・17 第38回全国盲人音楽科福祉大会ならびに邦楽演奏会を本県で開催。1日目の演奏会は、全国から参加した11社中などのすばらしい演奏会があった。
- 11.9・10 秋季一泊研修会開催。出水・水俣方面。
☆ この年から会員の希望により、夏季研修が秋季研修に変更された。

この年は、鹿児島市の小山義方氏が鹿児島県の教員採用試験に点字で受験し、初めて合格。

- 平成 9 2.16・17 第 50 回九州盲人福祉大会（熊本県）本会から 17 名参加。
- 4.27 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）視覚連運営基金構想が
執行部より提案、採択。役員改選の結果、新役員は次のように決定。
- | | | | |
|-----|--------|-------|--------|
| 会 長 | 大久保 哲男 | | |
| 副会長 | 森永 速雄 | 清藤 郁雄 | |
| 理 事 | 右田 信男 | 宮園 巡 | 瀬野 浦祐矩 |
| | 白山 哲也 | 白石 禮子 | 永田 正信 |
| | 小松 憲和 | 立山 義雄 | 山之内 篤雄 |
| | 井上 常治 | | |
| 監 事 | 有村 範雄 | 末次 嵩 | |
- 5.10・11 第 34 回九州盲社会人グランドソフトボール（盲人野球）ならびに
第 25 回卓球大会を本県で開催（桜島町の溶岩グラウンドと体育
館）グランドソフトボールは 9 年ぶりの優勝。11 月に大阪府で行わ
れた全国大会に九州代表として出場、1 回戦で敗退。卓球は団体戦
2 連覇。個人戦でも全盲男子の部で優勝。
- 5.19～21 第 50 回全国盲人福祉大会（新潟県）本会から 19 名参加。
- 9.14 この日行われた幹部研修会で、「視覚連の現状と課題」というタイ
トルで初めてのシンポジウムを実施。（県鍼灸マッサージ師会館）
- 10.25・26 秋季一泊研修会開催。難コースの「えびの三池巡り」などを行った。
- 平成 10 2.14・15 第 51 回九州盲人福祉大会（福岡県）本会から 16 名参加。役員改
選の結果、会長に宮崎県の馬場弘氏、副会長に佐賀県の竹田寿和
氏を選出。
- 4.26 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）財政対策が大きな議題
となり、維持会費制度の実施と 11 年度から年会費を 2,000 円に
上げることを決議。
- 5.16・17 第 35 回九州盲社会人グランドソフトボールならびに第 26 回卓球
大会（宮崎県）グランドソフトボールは 2 連覇、11 月に神奈川
県で行われた第 34 回全国身体障害者スポーツ大会でも 2 度目の準
優勝を果たす。また、卓球は全盲男子の部で優勝、全盲女子の部で
準優勝。
- 5.19～21 第 51 回全国盲人福祉大会（東京都）本会から 21 名参加。日盲連
結成 50 周年の大会ということで、天皇・皇后両陛下も出席。
また、本会の森永速雄事務局長が厚生大臣表彰、吹上町の吉岡千
恵子氏が光の泉賞、鹿児島市の野村國雄氏が尽し賞、鹿児島市の

吉留政子氏が灯賞をそれぞれ受賞。

8. 29～31 第 44 回全国盲婦人研修会を本県で開催（サンロイヤルホテルと市民文化ホール）県内外から 700 名参加。

10. 24・25 秋季一泊研修会開催。天草方面。45 名参加。

平成 11 2. 4 元会長の中山岩男氏が死去。享年 80 歳。

2. 6・7 第 52 回九州盲人福祉大会（沖縄県）本会から 10 名参加。5 月に沖縄県で全国大会が行われることになっていたため、代議員総会のみ開催。

4. 18 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）役員改選の結果、新役員は次のように決定。

会 長	森永 速雄		
副会長	清藤 郁雄	宮園 巡	
理 事	瀬野浦祐矩	白石 禮子	山之内篤雄
	小濱 馨	上 蘭 誠	井上 常治
	尾曲 政輝	小松 憲和	永田 正信
	白山 哲也		
監 事	末次 嵩	坂元 道郎	
相談役	大久保哲男		

5. 1 元会長の篠田長助氏死去。享年 91 歳。

5. 15・16 第 36 回九州盲社会人グランドソフトボールならびに第 27 回卓球大会（大分県）グランドソフトボールと卓球の団体はアベック優勝。卓球は個人戦でも全盲男子の部で優勝、全盲女子の部で優勝・準優勝。なお、グランドソフトボールチームは 11 月に熊本県で行われた全国身体障害者スポーツ大会に九州代表として出場、1 回戦で敗退。

5. 16～18 第 52 回全国盲人福祉大会（沖縄県）本会から会員・家族・ボランティアなど 18 名参加。

9. 18・19 秋季一泊研修会開催。国分・志布志・都城方面。上野原縄文の森などを見学。84 名参加。

この年から横浜市にあった「視覚障害者支援センター」と協力してはがき拝領事業が実施。

11. 23 結成 70 周年記念福祉大会開催（県市町村自治会館）330 名参加。役員功労者 15 名と内助功労者 11 名に表彰状を、ボランティア 1 名に感謝状を贈呈。その他、議事、記念講演、祝賀会などが行われた。

平成 12 2. 12・13 第 53 回九州盲人福祉大会（長崎県）本会から 15 名参加。役員改

選の結果、会長に宮崎県の馬場博氏が再選、本会の尾曲理事を監事として選出。

3. 22・23 本会事務所移転。鴨池新町の県社会福祉センターから小野町の旧点字図書館跡に建設された「ハートピアかごしま」に移転。

☆ 点字図書館は「鹿児島県視聴覚障害者情報センター」と改名、同じ建物に入った。

4. 23 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）

5. 13・14 第 37 回九州盲社会人グランドソフトボールならびに第 28 回卓球大会（北九州市）グランドソフトボールは準決勝で敗退。卓球は団体優勝、個人戦でも全盲男子・全盲女子共に準優勝。

5. 21～23 第 53 回全国盲人福祉大会（広島県）本会から 12 名参加。

10. 28・29 秋季一泊研修会開催。行先は湯布院方面で、胡麻焼酎工場・オルゴール館・ハーブ園などを見学。82 名参加。

平成 13 2. 3・4 第 54 回九州盲人福祉大会を本県で開催（サンロイヤルホテルと市民文化ホール）県内外から 507 名参加。

3. 22 元会長の北園英藏氏死去。享年 77 歳。

4. 22 通常総会開催（県鍼灸マッサージ師会館）役員改選の結果、新役員は次のように決定。

会 長 森永 速雄

副会長 清藤 郁雄 宮園 巡

理 事 瀬野浦祐矩 小濱 馨 八反田エミ子

小山 義方 尾曲 政輝 山之内篤雄

小松 憲和 上園 誠 永田 正信

上園 光男

監 事 末次 嵩 坂元 道郎

相談役 大久保哲男

5. 4・5 第 38 回九州盲社会人グランドソフトボールならびに第 29 回卓球大会（福岡市）グランドソフトボールは優勝、卓球も団体戦 3 連覇。なお、グランドソフトボールチームは 10 月に宮城県で行われた第 1 回障害者スポーツ大会に九州代表として出場、準優勝。

5. 16～18 第 54 回全国盲人福祉大会（埼玉県）本会から 12 名参加。この大会で、鹿児島市の野村國雄氏の婦人久子さんが光の泉賞を受賞。

6. 9・10 第 18 回九州盲青年研修大会を本県で開催（ハートピアかごしま）県内外から 34 名参加。2 日目は、国分市薩摩ビール園で野外研修。

7. 11 視覚障害者情報提供事業（電話ナビゲーションシステム）の開設式開催（本会事務所）県・日盲連、そして本会から関係者、約 20 名出席。

10. 27・28 秋季一泊研修旅行開催。種子島宇宙センター、鉄砲記念館などを

見学。52 名参加。また、この旅行では初めての試みとして、地元のガイドヘルパーの方々に手引きや誘導など様々な支援をしていただいた。

- 平成 14 2. 24・25 第 55 回九州盲人福祉大会（佐賀県）本会から 15 名参加。この大会で、清藤副会長が EYE（アイ）基金特別表彰を受賞。なお、EYE 基金による表彰はこれが最後になった。また、役員改選の結果、会長に福岡県の田代浩司氏、副会長に佐賀県の竹田寿和氏が選出。
4. 28 通常総会開催（ゆうあい館）なお、この総会から視覚障害者リアルタイム情報提供事業の決算報告と予算案が審議事項に加えられた。
5. 11・12 第 39 回九州視覚障害者グランドソフトボールならびに第 30 回卓球大会（熊本県）グランドソフトボールは 2 連覇。卓球団体は 1 回戦で敗退。個人戦は全盲男子の部で優勝。なお、グランドソフトボールチームは 11 月に高知県で行われた第 2 回全国障害者スポーツ大会に九州代表として出場、1 回戦で引き分けによる抽選の結果敗退。
5. 15～17 第 55 回全国盲人福祉大会（滋賀県）本会から 7 名参加。
9. 22・23 秋季一泊研修旅行開催。熊本県菊池市方面。50 名参加。
- 平成 15 2. 16・17 第 56 回九州盲人福祉大会（福岡市）本会から 15 名参加。
4. 27 通常総会開催（ハートピアかごしま）役員改選の結果、新役員が次のように決定。
- | | | | |
|-----|--------|-------|-------|
| 会 長 | 森永 速雄 | | |
| 副会長 | 清藤 郁雄 | 宮園 巡 | |
| 理 事 | 瀬野浦祐矩 | 小濱 馨 | 小山 義方 |
| | 八反田エミ子 | 山之内篤雄 | 小松 憲和 |
| | 尾曲 政輝 | 上 蘭 誠 | 立山 義雄 |
| | 上園 光男 | | |
| 監 事 | 末次 嵩 | 坂元 道郎 | |
| 相談役 | 大久保哲男 | | |
5. 4・5 第 40 回九州視覚障害者グランドソフトボールならびに第 31 回サウンドテーブルテニス（盲人卓球）大会（福岡県）グランドソフトボールは 2 回戦で引き分けによる抽選の結果敗退。サウンドテーブルテニスは団体戦優勝、個人戦でも全盲男子の部を 1 位から 3 位まで独占、弱視女子の部でも優勝。
5. 11 理事会において、会報のカセットテープ版発行を決議。
5. 15～17 第 56 回全国盲人福祉大会（神奈川県）本会から 8 名参加。
10. 4・5 第 16 回九盲三療研修会を本県で開催（ステーションホテルニューカゴシマ）県内外から 122 名参加。
11. 2・3 秋季一泊研修旅行開催。佐賀県嬉野温泉方面。45 名参加。なお、

この年がレクリエーション支援事業として県から補助金をもらった最後の旅行であった。

- 平成 16 2.15・16 第 57 回九州盲人福祉大会（宮崎県）本会から 31 名参加。役員改選の結果、田代会長と竹田副会長を再選。
- 4.25 通常総会開催（ハートピアかごしま）国の施策として進められている市町村合併を機会に、組織の強化に努めることが話し合われた。
- 5.19～21 第 57 回全国盲人福祉大会（石川県）本会から 9 名参加。
- 5.29・30 第 41 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（佐賀県）準決勝途中で豪雨のためノーゲームとなり、抽選の結果敗退。なお、この年から、グランドソフトボールとサウンドテーブルテニスは分離開催。
- 9.19・20 秋季一泊研修旅行開催。宮之城・紫尾方面。38 名参加。
- 11.1 視覚連メーリングリスト運用開始。
- 11.20・21 第 32 回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（熊本県）結果は団体戦準優勝、個人戦は全盲男子・全盲女子の部で優勝。
- 平成 17 2.6・7 第 58 回九州盲人福祉大会（福岡県）本会から 13 名参加。当初北九州市で開催の予定だったがそれがならず、福岡県で代議員総会のみ開催。
- 2.26 コールはららの協力で、第 1 回ふれあいミニミニコンサート開催（ハートピアかごしま）
- 4.24 通常総会開催（ハートピアかごしま）役員改選の結果、新役員が次のように決定。
- | | | | |
|-----|--------|-------|-------|
| 会 長 | 森永 速雄 | | |
| 副会長 | 清藤 郁雄 | 宮園 巡 | |
| 理 事 | 瀬野浦祐矩 | 小濱 馨 | 小山 義方 |
| | 山之内トミエ | 小松 憲和 | 尾曲 政輝 |
| | 上 蘭 誠 | 立山 義雄 | 上園 光男 |
| 監 事 | 末次 嵩 | 下瀬 英幸 | |
| 相談役 | 大久保哲男 | | |
- 4.30 本会音楽部の新しい活動として、大正琴部を発足。
- 5.7・8 第 42 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（長崎県）優勝、11 月に岡山県で行われた第 5 回全国障害者スポーツ大会に九州代表として出場、1 回戦で敗退。
- 5.18～20 第 58 回全国盲人福祉大会（山口県）本会から 10 名参加。この大会で川部町の福元清郎氏夫人アイ子さんが光の泉賞を受賞。
- 6.12 第 1 回視覚障害者福祉器機展を JRPS 鹿児島県支部との共同で開催（鹿児島市市民福祉プラザ）300 名余り参加。

9. 18・19 秋季一泊研修旅行を実施する予定であったが、参加者が少なかったため中止。
10. 15・16 第33回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（福岡市）団体戦は1回戦で敗退。個人戦は全盲女子の部で優勝。
- 平成 18 2. 5・6 第59回九州盲人福祉大会（大分県）本会から15名参加。役員改選の結果、会長に佐賀県の竹田寿和氏、副会長に本会の森永速雄会長を選出。また、本会からは尾曲理事を体育部長、山之内理事が女性部副部長に選出。
4. 23 通常総会開催（ハートピアかごしま）
5. 13・14 第43回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（沖縄県）1回戦で敗退。
5. 17～19 第59回全国盲人福祉大会（名古屋市）本会から11名参加。
6. 4 第1回プレクストーク講習会をテープ同好会との共同で開催（ゆうあい館）25名参加。
10. 8・9 秋季一泊研修旅行開催。人吉方面。37名参加。
10. 21・22 第34回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（宮崎県）結果は団体戦優勝、個人戦は全盲男子・全盲女子の部で優勝。
12. 6 清藤副会長が厚生労働大臣表彰を受賞。
- 平成 19 2. 3 第1回視覚連音楽部発表会開催（ハートピアかごしま）
2. 18・19 第60回九州盲人福祉大会（熊本県）本会から19名参加。
4. 22 通常総会開催（ハートピアかごしま）役員改選の結果、新役員が次のように決定。
- | | | | | |
|-----|--------|--------------|--------|--|
| 会 長 | 清 藤 郁雄 | | | |
| 副会長 | 宮 園 巡 | 末 次 嵩 | | |
| 理 事 | 瀬野浦祐矩 | 小 濱 馨 | 小 山 義方 | |
| | 山之内トミエ | 尾 曲 政輝 | 小 松 憲和 | |
| | 上 園 誠 | 上 園 光男 | 今 村 吉春 | |
| | 脇 園 壽子 | | | |
| 監 事 | 下 瀬 英幸 | 上 田 裕子（外部監事） | | |
- ☆ 外部監事は県からの指導により、19年度から採用。
- 相談役 大久保哲男 森永 速雄
5. 16～18 第60回全国盲人福祉大会（山形県）本会から11名参加。
5. 26・27 第44回九州視覚障害者グランドソフトボールならびに第35回サウンドテーブルテニス大会を本県で開催（桜島溶岩グラウンドと体育館）グランドソフトボールは1回戦で敗退。サウンドテーブルテニスは団体優勝、個人戦でも全盲女子・弱視女子の部で優勝、全盲男子の部で準優勝。
7. 29・30 九州盲女性指導者研修会を本件で開催（ステーションホテルニュー

- 一カゴシマ・鹿児島市勤労交流センター）県内外から 103 名参加。
10. 7・8 秋季一泊研修旅行開催。大分県の九重夢大吊橋・タデ原湿原を見学。
45 名参加。
- 平成 20 2. 17・18 第 61 回九州盲人福祉大会（福岡県）本会から 18 名参加。役員改選の結果、会長に熊本県の石淵貞次郎氏、副会長に福岡市の染井圭弘氏を選出。本会からは尾曲理事を体育部長、山之内理事を女性部長に選出。
4. 20 通常総会開催（ハートピアかごしま）
5. 24・25 第 45 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（大分県）準優勝。
6. 9～11 第 61 回全国盲人福祉大会（東京都）本会から 10 名参加。日盲連結成 60 周年と新日本盲人福祉センター落成記念を兼ねた大会であった。この大会で、宮園副会長が尽し賞を、知覧町の前田久男氏の婦人スミ子さんが光の泉賞を受賞。
10. 19. 結成 80 周年記念福祉大会開催（県市町村自治会館）、会員 216 名、来賓 7 名、関係者等、300 余名が参加。記念式典では、18 名に表彰状を、10 名に感謝状を贈呈。その他、議事、記念講演、祝賀会など行われた。
10. 25・26 第 36 回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（長崎県）当県チームは団体戦の 3 連覇ならず。
11. 23・24 1 泊研修旅行開催。宮崎県高千穂方面、40 名参加。
- 平成 21 2. 15・16 第 62 回九州盲人福祉大会（沖縄県）、本会から 17 名参加。
4. 19 通常総会開催（ハートピアかごしま）、役員改選の結果、役員が以下のように決定。
- | | | | | |
|-----|--------|--------------|--------|--|
| 会 長 | 清 藤 郁雄 | | | |
| 副会長 | 宮 園 巡 | 末 次 嵩 | | |
| 理 事 | 小 濱 馨 | 小 松 憲和 | 上 園 誠 | |
| | 瀬野浦祐矩 | 上 園 光男 | 小 山 義方 | |
| | 山之内トミエ | 今 村 吉春 | 脇 園 壽子 | |
| | 神 田 裕透 | | | |
| 監 事 | 下 瀬 英幸 | 上 田 裕子（外部監事） | | |
| 相談役 | 大久保哲男 | 森 永 速雄 | | |
5. 23・24 第 46 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（宮崎県）、結果は初戦で、沖縄県チームに敗退。
5. 25・27 第 62 回全国盲人福祉大会（京都府）、本会から 8 名参加。裁判員裁判制度の開始を目前にして、模擬裁判が行われ、多くの参加者が興味を示していた。
10. 11・12 1 泊研修旅行開催。福岡方面、41 名参加。

- 平成 22 2.6・7 第 63 回九州盲人福祉大会（長崎県）、本会から 19 名参加。役員改選が行われ、会長に、大分県の衛藤良憲氏、副会長に福岡市の染井圭弘氏を選出。
- 4.25 通常総会開催（ハートピアかごしま）
- 5.2・3 第 47 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（福岡市）、結果は前年度全国優勝した福岡県チームに、決勝戦で 7 対 5 で残念ながら敗退。
- 5.19・21 第 63 回全国盲人福祉大会（秋田県）、本会から 8 名参加。
- 10.10・11 秋季 1 泊研修旅行開催。福岡方面、50 名参加。
- 10.23・24 第 38 回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（福岡県）
- 平成 23 2.19・20 第 64 回九州盲人福祉大会（鹿児島県）、同会は、本年度は、当県の当番で開催され、県民交流センターとサンロイヤルホテルを会場に開催。当県および九州各県からの参加者を合わせると、500 名以上参加。
- 4.24 通常総会開催（ハートピアかごしま）、役員改選が行われ、以下のよう決定。
- | | | | |
|-----|-----------|---------------|-----------|
| 会 長 | 清 藤 郁 雄 | | |
| 副会長 | 末 次 嵩 | 小 松 憲 和 | |
| 理 事 | 上 園 光 男 | 山之内トミエ | 小 濱 馨 |
| | 上 園 誠 | 小 山 義 方 | 木 場 紗 代 子 |
| | 今 村 吉 春 | 脇 園 壽 子 | 田 中 岳 志 |
| | 瀬 野 浦 祐 矩 | 宮 園 巡 | |
| 監 事 | 下 瀬 英 幸 | 上 田 裕 子（外部監事） | |
| 相談役 | 大 久 保 哲 男 | 森 永 速 雄 | |
- 平成 11 年から 12 年間にわたり、事務局長を勤めてきた瀬野浦祐矩氏に代わり、小山義方氏が、新事務局長に就任。
- 5.10 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災者に対する義援金を募集。その結果、一般会員から 38 万 7,304 円が集まり、これに本会からの義援金 5 万円を加えて日盲連へ送金。
- 5.21・22 第 48 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（福岡県）、結果は福岡県チームに、決勝戦で 2 対 2、抽選の結果、見事優勝、6 年ぶり、11 回目の優勝。10 月に山口県で開催される全国大会へ出場。
- 6.3・5 第 64 回全国盲人福祉大会（島根県）、本会から 9 名参加。
- 10.9・10 1 泊研修旅行開催、新燃岳噴火に伴う霧島方面の観光客の減少を少しでも補うことができればと、霧島・志布志方面へ旅行。32 名参加。
- 平成 24 2.19・20 第 65 回九州盲人福祉大会（佐賀県）、昨年 10 月より始まった同

行援護事業について、日盲連副会長の前川氏より説明があった。
16 名が参加。また、役員改選があり、会長に大分県の衛藤良憲氏、副会長に福岡市の染井圭弘氏共に再選。

4. 1 法人法の改正により、本会も一般社団法人化を目指していたが、この日に、一般社団法人鹿児島県視覚障害者団体連合会としての法人登記が完了。

4. 22 定時総会開催（ハートピアかごしま）、一般社団法人となり、初めての定時総会を開催。一般社団法人となったが、役員の陣容には変化はなく、前年度と同様であり、以下のとおり。

会 長	清藤 郁雄		
副会長	末次 嵩	小松 憲和	
理 事	清藤 郁雄	末次 嵩	小松 憲和
	上園 光男	山之内トミエ	小濱 馨
	上園 誠	小山 義方	木場紗代子
	今村 吉春	脇園 壽子	田中 岳志
	瀬野浦祐矩	宮園 巡	
監 事	下瀬 英幸	上田 裕子（外部監事）	
相談役	大久保哲男	森永 速雄	

なお、この年度より、顧問として県議会議員の藤崎たけし氏を選任。

5. 3 ブラインドテニス体験会を開催（ハートピアかごしま）

5. 26・27 第 49 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（熊本県）、結果は長崎県チームに、決勝戦で 16 対 7 で快勝。2 年連続、12 回目の優勝。なお、10 月に岐阜県で開催された全国大会へ出場。

5. 27 同行援護制度の研修会をハートピアかごしまにて開催。日盲連の鈴木副会長をお招聘し、勉強会を行った。参加者は、各方面からで、会員外を含めて 230 名。

6. 7・9 第 65 回全国盲人福祉大会（千葉県）、本会から 11 名参加。

8. 25 ビール列車交流会を開催、29 名参加。

9. 2 リーダー研修会を開催、これまでの幹部研修会をリーダー研修会と改称し、本年度から開催。

9. 29・30 九盲三療研修会を当県で開催、九州各県より、56 名が参加。

10. 7・8 秋季 1 泊研修旅行開催（長崎方面）、39 名参加。

11. 17・18 第 40 回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（福岡市）、4 年ぶりの優勝。

平成 25 2. 2 森永速雄氏の叙勲祝賀会をパレスイン鹿児島で開催、57 名参加。

2. 17・18 第 66 回九州盲人福祉大会（福岡市）、18 名参加。

4. 28 臨時総会開催（ハートピアかごしま）、一般社団法人となり、2 年目の本年、臨時総会を行った。なお、定時総会は、6 月に実施。

- 5.11・12 第50回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（沖縄県）、結果は福岡県チームに、決勝戦で2対1で逃げ切り、3年連続、13回目の優勝。なお、10月に東京都で開催された全国大会へ出場。
- 6.9 定時総会開催（ハートピアかごしま）、4月に実施した臨時総会に引き続き、一般社団法人に義務づけられている公益目的支出計画実施報告書を同会へ提出。
- 6.21・23 第66回全国盲人福祉大会（福井県）、本会から9名参加。
- 11.3・4 1泊研修旅行開催（大分方面）、46名参加。
- 11.9・10 第41回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（大分県）当県チームが2連覇。
- 平成26 2.16・17 第67回九州盲人福祉大会（宮崎県）、22名参加。なお、役員改選が行われ、会長の衛藤良憲氏、副会長の染井圭弘氏再選。また、当会の清藤郁雄氏が理事に再任。
- 3.31 小山事務局長退職。4月1日より27年3月31日まで、瀬野浦前事務局長が事務職員を代行。
- 5.24・25 第51回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（長崎県）、結果は福岡県チームに、準決勝で1対7で敗退。
- 5.29・31 第67回全国盲人福祉大会（大分県）、本会から8名参加。
- 6.8 定時総会と理事会を開催（ハートピアかごしま）、新役員が決定、以下のとおりとなった。
- | | | | | |
|------|------------------|-----------|---------|--|
| 会 長 | 清 藤 郁 雄 | | | |
| 副会長 | 末 次 嵩 | 小 山 義 方 | | |
| 常務理事 | 上 園 光 男 | 武 元 光 廣 | | |
| 理 事 | 梶 原 浩 一 | 木 場 紗 代 子 | 小 松 憲 和 | |
| | 南 明 志 | 宮 園 巡 | 山之内トミエ | |
| | 脇 園 壽 子 | | | |
| 内部監事 | 神 田 裕 透 | | | |
| 外部監事 | 上 田 裕 子 | | | |
| 相談役 | 大 久 保 哲 男 | 森 永 速 雄 | | |
| 顧 問 | 藤 崎 た け し（県議会議員） | | | |
- 7.7 当会の公式 Web サイト（ホームページ）を開設、開設当初の URL は、<http://www5.synapse.ne.jp/kakenshikaku/>。その後、kakenshikakuren.jp という独自ドメインを取得し、現在の URL となる。
- 7.27・28 第46回九州盲女性研修会をホテルブルーウェーブイン鹿児島で開催、九州各県から150名が参加。会は、極めて盛況であった。
- 9.14・15 秋季1泊研修旅行開催（佐賀県方面）、34名参加。
- 10.4 当会で、同行援護従業者の養成を行うことになり、そのための講

座を開設。第1回の同会が、この日から、毎週土曜日に、5回にわたって、11月1日まで開講。なお、講師は、当会の会員が中心となり担当。

- 10.11・12 第42回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（宮崎県）当県チームが3連覇。
- 平成27 2.15・16 第68回九州盲人福祉大会（大分県）、6名参加。
- 4.1 叶亜寿香氏が事務職員として採用。
- 5.23・24 第52回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（宮崎県）、結果は決勝戦で熊本チームに、2対1で逃げ切り、14回目の優勝。なお、10月に和歌山県で開催された全国大会へ出場。
- 5.29・31 第68回全国盲人福祉大会（岐阜県）、本会から10名参加。
- 6.14 定時総会開催（ハートピアかごしま）、一般社団法人に義務付けられている公益目的支出計画の実施完了についても報告。
- 7.11 第2回同行援護従業者養成講習会の講座を開講、毎週土曜日に5回連続。本年度までは、年に1回の開講であったが、次年度からは、年2回の開講となった。
- 8.24 補装具・日常生活用具の支給に関する講習会を中央駅近くのキャンセビル8階の多目的ホールにて開催。厚生労働省より専門官、日盲連より竹下会長を招聘。関係者80名が受講。
- 9.6 青年部意見交換会を開催（ハートピアかごしま）、29年度には、当県で、全国盲青年研修大会が開催されることもあり、県内の青年層の組織化を図るべく、会を開催。
- 10.17・18 第43回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（鹿児島県）は、ハートピアかごしまを会場に開催、九州各県から、選手をはじめ、関係者を含め、160名が参加。なお、当県チームは、団体戦で4連覇。
- 11.22・23 秋季1泊研修旅行開催（天草方面）、19名参加。
- 平成28 1.4 当会が運営する同行援護従業者派遣センターみらいを開設、事務所を草牟田にあるマンション内に設置。
- 2.7 第1回同行援護従業者派遣センターみらいの運営委員会を、ゆうあい館で開催、年2回の同会の開催を決議、連絡会は、毎月実施。
- 2.14・15 第69回九州盲人福祉大会（熊本県）、14名参加。なお、役員改選が行われ、会長は、衛藤氏が再選されたが、副会長に、長崎県の野口豊氏、佐賀県の森きみ子氏が選出。また、当会からは、小山氏と、南氏が理事に選出、南氏は、青年部長。
- 5.7・8 第53回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（鹿児島県）、中山町にあるふれあいスポーツランドを会場に開催、熊本地震の影響で熊本県チームは、出場を辞退、6チームが参加。残念ながら、

当県チームは初戦で敗退。

5. 20・22 第 69 回全国盲人福祉大会（青森県）、当会から 4 名参加。
6. 19 定時総会と理事会を開催（ハートピアかごしま）、新役員が決定、以下のとおり。
- | | | | |
|------|--------------|--------|-------|
| 会 長 | 小山 義方 | | |
| 副会長 | 上園 光男 | 末次 嵩 | |
| 常務理事 | 神田 裕透 | 武元 光廣 | |
| 理 事 | 梶原 浩一 | 木場紗代子 | 清藤 郁雄 |
| | 小松 憲和 | 瀬野浦祐矩 | 南 明志 |
| | 宮園 巡 | 山之内トミエ | |
| 内部監事 | 向江 成年 | | |
| 外部監事 | 上田 裕子 | | |
| 顧 問 | 藤崎たけし（県議会議員） | | |
6. 30 4 月に発生した熊本県・大分県地方を中心とした地震への義援金を募ったところ、会員より 21 万 5,500 円が集まり、日盲連へ送金。
7. 3 第 63 回全国盲青年研修大会の第 1 回実行委員会を、きずな館を会場に開催、以後、第 8 回まで開催されたが割愛。
9. 18・19 秋季 1 泊研修旅行（福岡県方面）、25 名参加。
11. 5・6 第 44 回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（長崎県）当県チームが 5 連覇。
- 平成 29 2. 12 みらい利用者懇談会をハートピアかごしまで開催。
2. 26・27 第 70 回九州盲人福祉大会（福岡県）、15 名参加。
5. 6・7 第 54 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（大分県）、結果は、決勝戦で、福岡県チームに、5 対 1 で敗れ、残念ながら、優勝はならず。
5. 14 定時総会と理事会を開催（ハートピアかごしま）
5. 23 みらいの事務所が草牟田から、下伊敷へ移転。
5. 26・28 第 70 回全国盲人福祉大会（徳島県）、当会から 6 名参加。
8. 26・27 第 63 回全国盲青年研修大会・第 29 回九州盲青年研修大会（27 日のみ）を、勤労者交流センターと、東急 REI ホテルを会場に開催、全国から、160 名が参加。会は、極めて盛大であった。
9. 10 第 1 回鹿児島県視覚障害者福祉大会を開催、10 年ごとに開催される結成記念行事では、福祉大会という文字を冠して同大会が開催されるが、より多くの会員が参加する機会を作るべく開催。
10. 8・9 秋季一泊研修旅行（萩・下関方面）、28 名参加。
11. 11・12 第 45 回九州視覚障害者サウンドテーブルテニス大会（沖縄県）当県チームが 6 連覇。
- 平成 30 2. 14 当会の会長を歴任され、その後、相談役であった大久保哲男氏死

去、享年 91 歳。

2. 25・26 第 71 回九州盲人福祉大会（沖縄県）、12 名参加。なお、役員改選が行われ、会長は、長崎県の野口豊氏が新任、副会長は、森きみ子氏と、野村秀紀氏を選出。また、当会の、小山氏と南氏は引き続き、理事に選出、上園氏が監事に選出。

4. 22 第 2 回みらい利用者研修会および意見交換会を開催（ハートピアかごしま）、昨年の 2 月に引き続き、第 2 回目の同会を開催。

5. 12・13 第 55 回九州視覚障害者グランドソフトボール大会（福岡県）、結果は、決勝戦で、福岡県チームに 5 対 4 で勝ち、3 年ぶり、15 回目の優勝。なお、10 月に福井県で開催された全国大会に出場。

5. 27 定時総会と理事会を開催（ハートピアかごしま）、新役員が決定、以下のとおり。

会 長	小山 義方		
副会長	上園 光男	武元 光廣	
常務理事	叶 亜寿香	末次 嵩	
理 事	上原由美子	梶原 浩一	神田 裕透
	小松 憲和	瀬野浦祐矩	春田ゆかり
	南 明志		
内部監事	向江 成年		
外部監事	上田 裕子		
相談役	清藤 郁雄	宮園 巡	
顧 問	藤崎たけし		

6. 11・13 第 71 回全国盲人福祉大会（東京都）、当会から 13 名参加。なお、同会は、日盲連結成 70 周年を記念して、開催。

9. 23・24 秋季 1 泊研修旅行を湯布院・阿蘇方面で計画していたが、思うように参加者が集まらず、残念ながら、中止。

10. 28 当会の結成 90 周年記念行事を、鹿児島県産業会館、アクアガーデンホテル福丸を会場に開催。

歴代役員名簿

☆ Sは昭和、Hは平成を表す。

年 度	会 長	副 会 長
S3～13	川畑 宗次郎	江田 俊了
S14～16	川畑 宗次郎	飯牟礼 寿長
S23	村山 麒一	川島 登 東 安津麻
昭和 24 年 結成 40 周年記念誌に、それらしき記載はあるも、詳細は不明につき、本欄は、未記入とする。		
S25～26	村山 麒一	川島 登 鶴田 吉之助
S27～28	村山 麒一	鶴田 吉之助 北 蘭 英藏
S29～34	村山 麒一	鶴田 吉之助 篠田 長助
S35～36	篠田 長助	鶴田 吉之助 加納 秀雄
S37～40	篠田 長助	鶴田 吉之助 中山 岩男
S41	鶴田 吉之助	中山 岩男 前田 敏夫
S42	北 蘭 英藏	中山 岩男 前田 敏夫
S43～44	北 蘭 英藏	中山 岩男 森永 速雄
S45～46	北 蘭 英藏	中山 岩男 大久保 哲男
S47～48	色紙 正義	中山 岩男 大久保 哲男
S49～54	北 蘭 英藏	中山 岩男 大久保 哲男
S55～56	中山 岩男	大久保 哲男 右田 信男

年 度	会 長	副 会 長
S57～58	中山 岩男	大久保 哲男 森永 速雄
S59～61	中山 岩男	大久保 哲男 森永 速雄
S62～H2	中山 岩男	大久保 哲男 森永 速雄
H3～5	大久保 哲男	森永 速雄 上山 道則
H6～8	大久保 哲男	森永 速雄 上山 道則
H9～10	大久保 哲男	森永 速雄 清藤 郁雄
H11～18	森永 速雄	清藤 郁雄 宮園 巡
H19～22	清藤 郁雄	宮園 巡 末次 嵩
H23～25	清藤 郁雄	小松 憲和 末次 嵩
H26～27	清藤 郁雄	末次 嵩 小山 義方
H28～29	小山 義方	末次 嵩 上園 光男
H30～31	小山 義方	上園 光男 武元 光廣

90 周年 被表彰者名簿

1 表彰状（5 名）

板坂 耕一

上原 由美子

堂前 秀一

中宮 恵子

山脇 メリ子

2 感謝状（4 名）

清藤 郁雄

木場 紗代子

宮園 巡

山之内 トミエ

宣 言（案）

今年は、明治維新 150 年を迎えます。その節目の年に本会結成 90 周年の福祉大会を開催できることは、たいへん喜ばしいことと思います。

さて、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法は、私たちの上部団体である日本盲人会連合をはじめとする当事者団体が国に働きかけ勝ち取られた法律です。この法律の中に謳われている「合理的配慮」により、障害者の働く場や利用する施設においてバリアフリー化が進みつつあります。

しかし、障害者、特に視覚障害者の雇用率をみると、旧態依然としているのが現状で、特に鹿児島ではなかなか進んでいません。視覚障害者の職域を守り、広げていくにはどうすべきか。当事者に対する歩行訓練、点字やパソコンスキルなどの職業訓練を受けやすくするため、障害者の就労に関する制度の確立・充実化が求められます。

視覚障害者が駅ホームから転落し死傷する事故が相次いで起きています。ホームにおける可動柵やホームドアの設置のみならず、駅員に対する適切な誘導法に関する研修の実施など、ハード・ソフト両面に行き届いた駅のシステム作りが求められます。

また、視覚障害者に特化した制度として障害者総合支援法の個別給付に位置づけられている同行援護制度については、依然として利用時間・サービス内容に地域間格差が見られます。視覚障害者がいつでもどこでも安心して制度を利用できるよう、統一した制度の確立が求められます。

本会はあと 10 年で 100 年の大きな節目を迎えます。これらの課題を、この 10 年間でどれだけ改善できるか。それは、今後の本会の組織力に係っています。組織力を高めるためには、これからを担う私たちが一致団結し課題に取り組むことであると確信します。

結成 90 周年を迎えるにあたり、私たちは自分たちのため、そしてこれからを生きる後輩たちのために、視覚障害者にとってのよりよい社会を作ることを誓い、ここに宣言いたします。

平成 30 年 10 月 28 日

結成 90 周年記念
第 2 回鹿児島県視覚障害者福祉大会

決 議（案）

- 一 県内の公共機関（行政庁を含む）・企業及び事業所においては、合理的配慮に基づき視覚障害者を積極的に雇用されることを強く要望する。
- 一 視覚障害者にとって安心・安全な移動環境を作るため、同行援護制度が地域間格差のない全国的に統一した制度になるよう強く要望する。
- 一 駅ホームを安全に利用するため、全てのホームに JIS 企画に沿った誘導ブロックやホーム可動柵を設置していただくとともに、駅員に対し視覚障害者に対する適切な誘導に関する研修を実施していただくよう強く要望する。
- 一 視覚障害者の適職であるあはきの職域を守るため、無資格者類似行為者の一掃とあんま師等法 19 条の堅持を強く要望する。
- 一 テレビの緊急放送や外国語の日本語訳に使用される字幕を音声で知らせていただけるよう強く要望する。
- 一 本会結成 90 周年にあたり、更に組織を強化し団結力を高めて視覚障害者個々のニーズに答えられるような体制づくりに努める。

以上決議する。

平成 30 年 10 月 28 日

結成 90 周年記念
第 2 回鹿児島県視覚障害者福祉大会

編 集 後 記

当会が結成 90 周年を迎えるに当たり、記念誌の編修を任じられた。浅学菲才な私にとっては、いささか重荷にも感じられたが、温故知新の良い機会になるのではないかと、思い切って、受託した。

当会では、結成 40 周年の時から、10 年おきに、結成記念大会を開催し、それに合わせて記念誌も発行している。従って、今回のそれは、6 冊目を数えることになる。

私は、主に 80 周年記念誌を参考に、今回のものを編集した。私もそうであったように、多分、「視覚連 90 年の歩み」にある年譜については、それまでのものを大切に継承しつつ、その後の 10 年分を加筆される形であったろうと想像される。その時々の編集者の健筆が偲ばれてならない。

しかし、年譜を編むには、資料が必要である。後 10 年すれば、当会も結成 100 周年を迎える。その時には、より立派な 100 周年記念誌が編纂されればと思う。幸いなこととていうか、2014 年 7 月 7 日に、当会の公式 Web サイトが開設された。この中には、写真を含め、多くの資料が蓄積されて行く。

実行委員の中には、90 周年記念誌なので、もう少し簡素なものでも良いのではという声もあった。しかし、資料は、心して残さない限り、なかなか残るものではない。次に、筆を執る人が、より執筆しやすいようにという思いもあった。

なお、当会の歴代役員名簿であるが、会長と副会長のみを掲載した。それ以外の役員については年譜内に記録されており、重複を避ける意味からである。

今回も、四つの大会スローガンが提示された。その中で、私は、「伝えよう 組織の存在意義」が最も重要なようにも思えてならない。

少子高齢化社会の今日、「50 年前は、胴上げ状態、現在は、騎馬戦状態、50 年後は、肩車状態である。」といわれる。これは、何を意味しているかということ、社会保障における、支える人の数である。

社会保障を後退させることなく、より充実させるには、組織力しかない。組織の大切さをより多くの当事者に認識してほしい。

このことを、編集後記の結びとして、筆を置きたい。

(平成 30 年 9 月 30 日 台風 24 号の雨音を聞きながら 武元記す)

自立支援センター南さつま



☆農園での野菜栽培収穫作業

☆手作りクラフト作品の製作

☆公園清掃 など

😊😊😊みんなで楽しく活動中😊😊😊

就労継続支援B型事業所

地域活動支援事業所

特定非営利活動法人 すだちの会

〒897-0006

鹿児島県南さつま市加世田本町41-19

☎・Fax 0993-53-6116

E-mail : sudatino@po3.synapse.ne.jp

N P O 法人光の会 就労支援センター ふたば

スタッフと利用者が一緒になって
明るくそして楽しく作業をしています



〒891-0114

鹿児島市小松原1-4-15 柳元ビル1F

TEL・FAX: 099-814-7541

Eメール: hikari-office@po5.synapse.ne.jp

平成 30 年 10 月 28 日発行

発行者：一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会
会 長 小山 義方

編集者： 武元 光廣

事務局：〒890-0021

鹿児島市小野一丁目 1 番 1 号

ハートピアかごしま 3 階

TEL/FAX：099-228-6712